

# 広島県感染症発生動向月報

[ 広島県感染症予防研究調査会 ]  
( 令和元年5月解析分 )

## 1 今月のトピックス

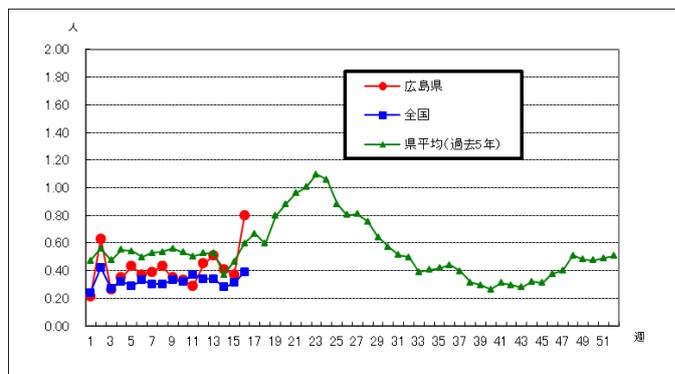
### これからの時期に注意すべき感染症

#### (1) 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症で、プールでの感染も多くみられることから「プール熱」とも呼ばれます。

広島県では、定点医療機関からの報告患者数が国立感染症研究所感染症疫学センターの示す基準値を超えたため、4月25日に咽頭結膜熱警報を発令しました。これからの時期、流行には注意が必要です。

定点医療機関当たりの報告患者数 (R1 広島県)



病原体	アデノウイルス
症状	発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎に伴う結膜充血、眼痛等を訴え、3～5日間程持続します。 眼症状は、一般的に片方から始まり、その後、片方にも出現します。潜伏期は5～7日とされています。
感染経路	飛沫感染、接触感染
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いとうがいの励行が基本となります。</li> <li>プールや温泉施設を利用する際は、前後にシャワーを必ず浴び、タオルの共用は避けましょう。</li> </ul>

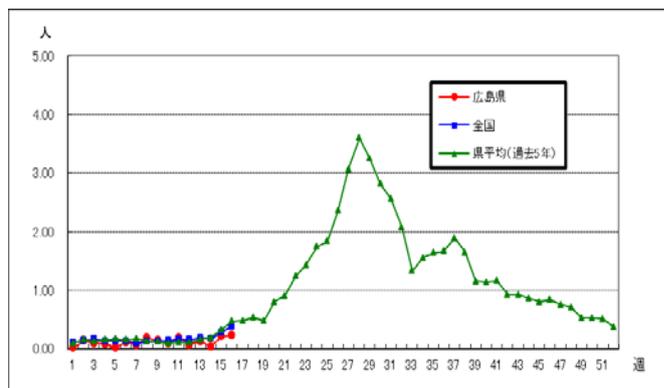
#### (2) 手足口病

手足口病は、口の中や手足などに水疱性の発疹が出る急性のウイルス感染症です。

乳児・幼児を中心に、夏季に流行が見られます。

例年5月下旬から定点医療機関からの報告患者数が増加する傾向にあり、これからの時期、流行には注意が必要です。

定点医療機関当たりの報告患者数 (R1 広島県)



病原体	コクサッキーウイルスA16, 10型, エンテロウイルス71型
症状	感染から3～5日の潜伏期間の後に、口の中、手、足などに2～3mmの水疱性発疹が現れます。発熱は比較的軽く、高熱が続くことは通常はありません。一般的には、数日間で治癒する予後良好の感染症です。 ただし、発疹の初期2～3日の症状の変化には注意が必要で、特に、元気がない、頭痛・嘔吐を伴う、高熱を伴う、発熱が2日以上続く、などが見られた場合には、かかりつけ医に受診するようにしてください。 また、まれに重症化や合併症を伴う場合があり、特にエンテロウイルス71型に感染した場合は、髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を生ずる割合が高いことが明らかとなっています。
感染経路	飛沫感染、接触感染、経口感染
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いの励行が基本となります。</li> <li>特に、おむつ交換をするときには、排泄物を適切に処理し、しっかり手洗いをしてください。</li> <li>有効なワクチンはありません。</li> </ul>

## 2 疾患別定点情報 【速報値】

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成31年4月分(平成31年4月1日～令和元年5月5日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	803	1.46	2.13	↓	10	ヘルパンギーナ	7	0.02	0.09	
2	RSウイルス感染症	174	0.51	0.20	↗	11	流行性耳下腺炎	62	0.18	0.42	↘
3	咽頭結膜熱	200	0.58	0.55	↗	12	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.02	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	605	1.76	2.11	↘	13	流行性角結膜炎	44	0.50	0.78	↘
5	感染性胃腸炎	1,968	5.74	7.68	↘	14	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
6	水痘	80	0.23	0.39	↗	15	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
7	手足口病	57	0.17	0.38	↗	16	マイコプラズマ肺炎	6	0.06	0.11	
8	伝染性紅斑	90	0.26	0.16	↗	17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.01	
9	突発性発しん	112	0.33	0.47	↘	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	42	0.41	0.76	↑

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成31年4月分(4月1日～4月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	54	2.35	2.08	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	69	3.29	3.65	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	24	1.04	0.73	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0.43	0.55	
21	尖圭コンジローマ	17	0.74	0.61	↗	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.03	
22	淋菌感染症	20	0.87	0.62	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

#### 発生記号(前月と比較)

<b>急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)</b>					
○急増疾患	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	(0.18 → 0.41)	↑	↓	1:2以上の増減
○急減疾患	インフルエンザ	(3.38 → 1.46)	↗	↘	1:1.5~2の増減
			↗	↘	1:1.1~1.5の増減
			→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患, 月報対象7疾患)について, 県内178の定点医療機関からの報告を集計し, 作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1~11	12, 13	19~22	14~18, 23~25	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	33	結核(33) [西部保健所(3), 西部東保健所(2), 東部保健所(4), 北部保健所(1), 広島市保健所(16), 呉市保健所(5), 福山市保健所(2)]
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症(2) [広島市保健所(1), 福山市保健所(1)]
四類	4	レジオネラ症(1) [東部保健所(1)], 重症熱性血小板減少症候群(1) [呉市保健所(1)], 日本紅斑熱(2) [東部保健所(2)]
五類	68	アメーバ赤痢(2) [東部保健所(2)], カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2) [西部東保健所(1), 北部保健所(1)], 急性脳炎(3) [広島市保健所(3)], クロイツフェルト・ヤコブ病(2) [広島市保健所(1), 呉市保健所(1)], 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(4) [西部保健所(1), 広島市保健所(3)], 後天性免疫不全症候群(2) [広島市保健所(2)], 侵襲性肺炎球菌感染症(11) [東部保健所(3), 広島市保健所(7), 福山市保健所(1)], 梅毒(8) [広島市保健所(7), 福山市保健所(1)], 百日咳(29) [西部保健所(5), 西部東保健所(4), 北部保健所(1), 広島市保健所(8), 呉市保健所(3), 福山市保健所(8)], 風しん(4) [西部保健所(2), 西部東保健所(1), 広島市保健所(1)], 麻疹(1) [東部保健所(1)]